

日本テコンドー協会（J T A）
2022年8月 理事会通信

日本テコンドー協会
理事長 河 明生

理事会における公開可能な決定事項につき告知します。

主要議題

第33回全日本フルコンタクト・テコンドー選手権大会同等記録会実施種目

結論

蹴武型の技術力維持等をはかるため次の通り実施する。

優勝者には全日本FT大会同等の名誉（第33回全日本FT大会A級蹴武型優勝者と記録）を与える。

言記

名称 第33回全日本フルコンタクト・テコンドー選手権大会同等記録会（以下、全日本記録会）

日時 2022年10月22日（土）第25回関東テコンドー選手権大会開催時、同時実施

場所 横浜武道館（JR石川町）

注意 疫病により横浜武道館使用禁止の場合は中止となる

経緯

疫病がおさまらない中、青年部の組手技術レベルの低下が否めない。

とりわけ看板であるフルコンタクト・テコンドーの選手レベルが低下しており、今年度もA級組手の開催は難しいと判断し、2022年春の理事会において議論され、第33回全日本フルコンタクト・テコンドー選手権大会開催も見送られた。

① 他方、日本 拳道の魂と言える蹴武の型のレベルは持続的に堅持している。

これは型のベテラン選手、すなわち西谷信一郎（47歳、東京大森TCクラブ長）や

相良隆典（43歳、鹿児島曾於TCクラブ長）の熱意に負うところが大きい。

しかも全日本FT大会A級蹴武型3連覇の福島良菜（20歳、福岡筑紫野TC指導員）が予選会で復活優勝。

同輩の斎藤未有（20歳、福岡筑紫野TC）もレベルアップし予選会で優勝した。

彼ら彼女ら蹴武の型A級選手は、組手A級選手とは異なり

- ① J T A テコンドーに対する情熱が高い
 - ② 平常心を維持し道場が使用できなくとも絶え間ない自己鍛錬をしている
 - ③ 自主的かつ自律的に大会に参加している
 - ④ 客観的に技術水準が高い
- 等の「J T A が目指す武道家らしい要件」を満たしている。

歴史を顧みると、平時の際には人間の真価は現れない。
ところが、自然災害、戦乱、疫病等、乱の際に人間の真価が表徴されうる。
運、不運はあるものの、人は困難に直面すればするほど内面的特性が現れ、人格の優劣が表徴される場合が多々あるのだ。

3年以上に渡る疫病禍においても、
上記「J T A が目指す武道家らしい要件」を満たす彼らは武道家としてすばらしい！
「第33回全日本F T 大会 蹴武型A級チャンピオン」の称号にふさわしい門人といえる。

② B 級蹴武型も実施する。
宗師範総見参加者の少年少女部の成長が著しく「将来の A 級蹴武型選手層」を充実させるため実施する。

③ 一部団体戦型も実施する。
疫病禍において団体戦の練習は個人競技よりも困難である。
だが、横浜市立大学テコンドー部、福岡筑紫野テコンドークラブ、長崎佐世保・佐々テコンドークラブ等はそれぞれ2チームも予選会・団体戦に参加している。
当該クラブ指導者の人望、会員の連帯感や団結力等が優れているからであろう。
より一層のクラブ活性化のため団体戦型も実施する。

なお、2チームを1チームにしぼっても構わない。ただし、予選会に参加したメンバーに限るものとする。

④ B 級組手も実施する。
実施の可否につき意見が割れたが、「40歳を過ぎたオジサン達がかんばっている」等の熱意を重く見、開催するものとする。

以上、2022年度・全日本記録会を実施する所以である。

付記

理事長が議題を提起したが、全日本記録会の可否につき、「私以外の理事・副理事の多数決で決したい」とした。実施の提案につき、理事1名、副理事3名が賛意を表した。なお、理事1名は棄権している。